

# 地区だより

V O L 2 5 1995.6.6  
発行 西湘放射線技師会

今般、平成7～8年度の会長をお引き受け致しました。会員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて、本年はレントゲン博士が1895年11月8日に、X線を発見したと発表してから100年の佳節にあたり世界的に慶祝行事が計画されて居ります。

西湘放射線技師会においても、先般の総会を経て100周年と本会の35周年記念とを併せて同時記念式典として開催する運びとなりました。早速、役員一同心を合わせて準備を進めて居ります。

何と申しましても私達診療放射線技師にとって、X線の存在の意義は職業そのものと言っても良い程の深い縁がある訳ですから、会員の皆様と共に総力を挙げて慶祝して参りたいと考えております。

記念式典の日程も平成7年9月15日（金曜日・敬老の日）と決定しました、会員の皆様には万障お繰り合わせの上、全員参加されますよう重ねてお願い致します。

さて昨今は、時代が21世紀に移行する節目に当たるためなのか、大地震が起こったり、予測もできない事件が起きたりと世の中が騒然として居ります。会員の皆様が職場にあっても、御家庭におかれましても御健勝でありますようお祈りして居ります。「無事安穩」

西湘放射線技師会会長 小宮 邦雄



# 平成六年度定期總會報告

日時 平成7年4月6日 (木) 午後6時30分～

場所 小田原市立病院 2階会議室

平成6年度定期總會は、上記の場所にて開会されました。總會出席者37名、委任状提出者25名、合計62名、よって、總會成立後、議長に足柄上病院中川氏を選出しました。總會成立後、議長に足柄上病院中川氏を選出しました。

議題としては、

平成6年度事業報告  
平成6年度会計報告  
平成6年度監査報告  
役員改選

それぞれ承認可決されました。

会長	山近病院市立病院	小宮	雄
副会長	小田柄近蔵田大小小メ丹小山	千葉倉田本内岡田安野藤	助治彦巳次良一二三俊二
事務担当	山近蔵田大小小メ丹小山	岩和坂大高前徳高佐宗中	健明重三憲緊俊紀英源恒
会計担当	山近蔵田大小小メ丹小山		
福利厚生理事	山近蔵田大小小メ丹小山		
編集担当	山近蔵田大小小メ丹小山		
監事	山近蔵田大小小メ丹小山		

平成7年度事業計画案  
平成7年度会計予算案

それぞれ承認可決されました。

その他として、会長から名誉会員の資格検討の提案、小宮新会長の就任挨拶、西湘放射線技師会発足35周年式典の開催の提案、などがあり午後7時30分に閉会となりました。

ここに、会員の皆様の御協力により、總會が無事に終了したことを報告いたします。

書記

小田原循環器病院  
小田原市立病院

高岡憲良  
鈴木美佐子

# 地区委員会報告

日時：平成7年5月17日（水） 18:30～20:30

場所：神奈川県放射線技師会事務所

## 1 理事会報告

### 1) 大学院設置募金について

日本放射線技師会の鈴鹿医療科学技術大学大学院設置募金運動は、3月31日をもって終了しましたが、神奈川県放射線技師会では9月まで募金運動は続行することになりました。なぜなら日本放射線技師会に対しては「組織の責任」から責任を果たしましたが、募金不足額は251万円を積立金より借入しての目標額達成なのです。

協力して頂いた会員の皆様に厚くお礼を申し上げますと共に募金額100%達成にご協力下さい。

### 2) 未入会技師の入会促進について

現在、未入会員が約600人いるが、資産を増やす意味と、会員の質を高める為に、250人の会員に入会してもらう運動を展開して行く予定です。

### 3) 決算総会について

5月28（日）10時より神奈川県立がんセンター講堂において第58回（社）神奈川県放射線技師会総会が開催されます。

### 4) 本年度重要事業について

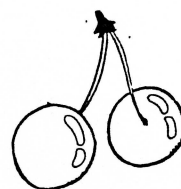
#### ①神奈川県放射線学術大会

X線発見100周年記念、法人化10周年記念

日時：平成7年10月1日（日） 9:30～

場所：横浜市健康福祉センター

記念誌・記念品も考えています。



### 5) その他

関東地区学術大会が長野県で6月1～4日まで開催されます。

多忙な、中村会長も出席されるそうです。家族での参加も歓迎とのこと。

神奈川県会員の多数の参加をお願いします。会費は1500円です。

◇今年度より坂本さんから地区委員を引継ました岩倉です。不慣れではございますが、県技師会と西湘地区との情報の橋渡し役として頑張って参りたいと思っています。よろしくご指導お願いします。

地区委員 岩倉

## X線発見100周年 記念特集

X線発見から100年、私たちは先輩技師の皆さんが築いてくださった土台の上で仕事をしていることを忘れてはなりません、診療放射線技師の仕事の原点とこれからの展望を考えながら、先輩諸兄の歩んできた道のりを辿ってください。



### 『古稀となりて』

曾我病院 百瀬 宏

古稀 唐の詩人杜甫の詩の一節「人生七十古来稀」から70才を古稀とよぶようになりましたが、紀元前2千年頃の古代ヘブライ人が神を讃える詩を集めた詩集の第90編10節には「我等の齡は70年にすぎません、あるいは健康であっても80年でしょう、しかし一生はただ骨折りと悩みであって、その過ぎ行くことは速く、我等は飛び去るのです」とあり、今年で古稀となる私の、”骨折りと悩み”を”飛び去る”前に拙文で綴りました。

『学生の頃』 大正15年3月生まれ、年齢イコール昭和の年数となります。小学校入学が昭和7年、この年は満州事変、卒業の頃は日支事変、昭和16年12月8日、日米開戦は中学初年、卒業の年が終戦という具合に、少年時代は戦争と共に過ごしたことになります。予科練に学友を送り、私自身も国民皆兵の徴兵検査を受けておりますが、進学した学校が旧制高等学校理科乙類でしたので、兵役延期があり軍隊には行かずじまいでした。高校入学と同時に学徒勤労報国隊として、長野県大町の昭和電工に動員になり、工具生活をはじめて数か月で終戦となりました。

学業開始は9月中旬で初めての寮生活、教室での勉学となり白線帽とマント姿の高校生となった訳ですが、食糧難の時代、定期的停電など生活は苦しかった

のは事実ですが、とにかく勉強を怠った生徒でしたので、病気休学も含めて、3年在籍して1年中退と中途半端な学歴のまま松本を去りました。しかし、多感な年頃を戦後の解放された空気の中、ことに周囲を山に囲まれた高原の地で学舎や寮での友人との出会い、自然の美への感受性等々、何か心に刻まれたものがあるといえ、またこの地は父の出世地であり、そしてカミサンとの縁の始まりと、「青春のひとときを過ごした心に刻まれた地 松本」といえます。

『就 職』 傷心の身で平塚に帰り、焼け跡の街で小さな喫茶店を営業していた兄の手伝いをしていましたが、当時進駐軍と呼んでいた米軍関係の仕事客の一人に紹介されたのが、横浜伊勢佐木町にある診療所で、米軍コードのままに第332診療所、外国人と日本人の食事取扱者の検査所という名称で、現在でいえば検査センターになります。

米軍から県に移管されたので身分は県嘱託、仕事は”給仕”つまり雑用係で社会人の第一歩を22才で歩み始めました。

戦災からの復興も漸く軌道に乗った頃でしたが、横浜は占領地域が多く中心街は星条旗を掲げるビル街であり、市街地の真中は広い敷地のキャンプで、その中の伊勢佐木町の兵舎の一隅の鉄板作りのプレハブ兵舎が診療所でした。給仕の仕事で学んだことの一つが掃除で、受診者の来所前に待合室や診察室を掃除するのですが、水で濡らすのは易しく、拭いたようにみえても乾くと足跡が残っているので、モップを固く絞り力を入れないと清掃にならず、その難しさを経験したり、箒は寝かせて使うものと云われ、それはベンチの下の清掃に心がけるような意となり、天井裏のネズミ穴の始末や流しの詰まりの修理、現物支給の物品を県庁まで受け取りに行き、箒をかつぎバケツを提げて大通りの往来と、医師や看護婦、事務員と約25人の小さな組織でも裏方仕事の大切さを知りました。1年程して所長から「やってみないか」「あいよ」とばかりに引き受けたのがX線室の仕事で、資格制度前でしたので撮影業務に従事出来た訳です。

『X線室勤務』 開所時には、戦前に島津の学校出身の技師がX線室を開設したのですが、私の頃は離職しており後を引き受けた看護婦から、太った人はここ、やせた人はこことタイマーの位置を示されたのが撮影法、35mm間接フィルムをベルトに巻きタンクに入れて5分が現像法と、35mm胸部間接撮影が仕事でした。装置は戦時中の製造の可搬型で、口で説明しないとお判りいただけないものです。

精検の直接撮影は、米軍置き土産の半切のカセットの上部中央に四ツ切フィルムを入れ、暗箱を150cm位離して蛍光版前面に立てかけての撮影で、暗箱移動が困難なので暗箱に車をつけ床にレールを敷いて移動を容易にする工夫をしました。再撮は個人の呼び出しが軍関係のため面倒でしたので失敗は許されませんが、やはり失敗はありました。現像温度の上げ過ぎでフィルム膜面をとろけさせて50人全部オシャカには参りましたし、間接では右肺尖に、直接撮影では左肺尖に陰影が写っていることがあり、再々度の撮影時に三つ編みのおさがが片方ずつ背中に垂れていたとわかり、毛髪を束ねると陰影になることを知りました。読影は東北大抗酸菌研究所出身で結核の大家と自認していた所長先生なので、肺野黒化度について濃い淡いのと注意されましたが、管電圧一定、100mAの自己整流、5X5mmの水冷X線管でタイマー制御だけでよく撮影したものです。

当時の印象に残る風景で、昭和25年の朝鮮動乱時に、米軍の水陸両用戦車が列をなして街路を疾走していたのを記憶しており、その時155のコード名の米軍病院横の広場に仮設病棟が建てられ日本人看護婦の採用急増で診療所も多忙となりました、何分米軍の都合が全てに優先し診療所は3回移転させられそのつどX線室の位置や電源工事のこと、既設の建て物に合わせてのレイアウトなど、装置設置で重要なことを一人で解決しなければなりませんでした、貴重な経験で後々役立ちました。

『国家試験』 技師会幹部の先輩諸兄が努力していた技師法も最終段階になり

国家試験は避けられないと毎日曜日に講習会があり、県技師会が一つになって勉強しましたが、私はズブの素人で病院勤務もなく、聞くこと全て初耳でありリスホルムブレンデといわれても分かりませんし、理論はチンプンカンプン、実務2年が受験資格でしたので助かった訳です。

「右の者は昭和27年度診療エックス線技師特例試験に合格したことを証明する 昭和28年2月16日 厚生大臣 山形 勝見」の合格証書は大変な重みのある紙と痛感しました。

『医院時代』 初めての職業人として歩み始めた小さな診療所も、昭和27年10月、日米講和条約締結で解散し、5年近く共に過ごした職員は夫々に旅立ちましたが、私は所長が開業するので行動を共にして、ビル5階の一室の診療所の設計、X線室の配置などで業者との折衝をはじめとして、開設届の件で保健所、広告看板の道路使用許可の件で警察署、保険療養担当者講習会に代理出席で基金事務所にと、開業にともなう諸々の事務を行い、また月一度のレセプト書きとその提出に基金事務所に行くなど、庶務と医事の仕事を経験しましたが、これらのことも「病院」という組織体を全体的につかむのに大変役立ちました。

この医院での装置はマツダSP-75 戦災で無事だった中古の自己整流でしたが、初めての胃透視のため局方硫酸バリウムに澱粉を混ぜて加熱し”カユ”を作りましたが、どんな写真だったか記憶にありません。

X線管は空冷なので湿気が多くなるとバチバチと放電し、そのつどガーゼでハウベ内を拭きました。現像は手現像といわれるバット現像です、経験のある会員は幾人居られるでしょうか。



次回に続く

# 平成7年春期学術講演会のお知らせ

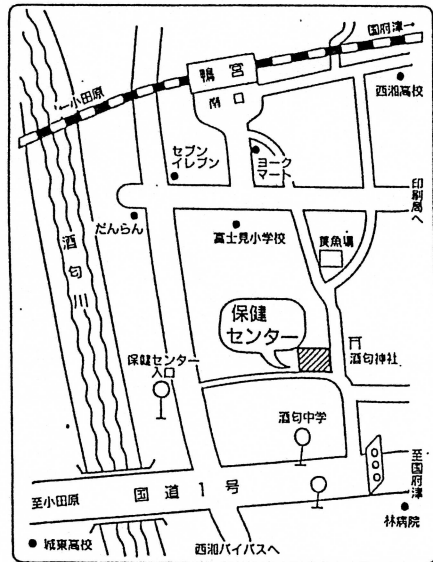
日時：平成7年6月29日（木）  
午後6時30分～8時30分

場所：小田原市保健センター  
3階大会議室

演題 「X線発生装置の変遷と測定技術」

講師 東邦大学大橋病院放射線科  
宮崎 茂 先生

主催 西湘放射線技師会学術担当



## 【予告】

### 西湘放射線技師会35周年記念式典 X線発見100周年記念講演会

技師会総会でもお知らせ致しました通り下記の日程で開催致しますので、関係各位の皆様のご参加をお待ちしております。

## 記

日時 平成7年9月15日（金）祝日  
会場 小田原 平安閣  
時間 午後2時から6時（予定）

1. 西湘放射線技師会35周年記念式典
2. X線発見100周年記念講演会  
講師 佐久間 正 先生 神奈川県放射線技師会名誉会員
3. 祝賀パーティー

※詳細は後日会員宛に郵送致します。

## 編集後記

4月の総会も皆様の御協力により無事終了し、役員改選が行なわれ、小宮新会長のもと各理事も勉強会、35周年記念・エックス線発見100年式典の準備と忙しい毎日です。私の担当は、編集、ワープロ打ちが主な仕事ですが、病院にしかワープロが有りません。家にノートパソコンが欲しいのですが、うちの大蔵省を誰か説得してもらえませんか、会計担当のWさん少し補助してください。

2年間他の理事に迷惑をかけないよう頑張ります。

(ひで)